

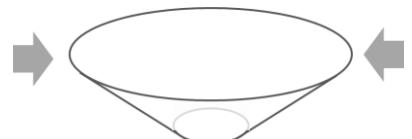
# アニソンオーディオフェス2025 「サブウーハー SW-1A（仮）」

カノン5D



## ポイント① 構造剛性振動板

振動板の補強部材を新規作製しました。  
振動板の横方向からの応力に対する剛性をより強化し、クリアな低音再生に磨きをかけました。



## ポイント② 大径フレア付きバスレフポート

論文を参考に、バスレフポート端部の形状を最適化。また、バスレフポート部材の揺れを抑える補強部材も使い、最大音量付近での音の安定性を高めました。



## ポイント③ エンクロージュ内部補強

パーティ合板の内側に、MDF材の補強を入れており、板厚は最大で33mm。  
スピーカーユニットは、磁気回路を柱材で支持し、明快な低音再生を可能にしています。

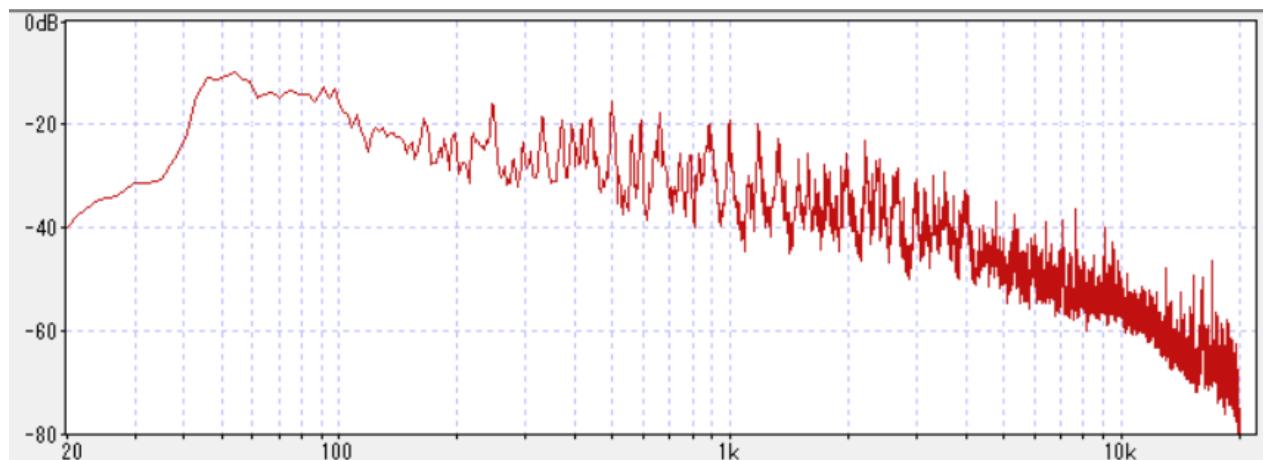


## 楽曲紹介 1曲目

### 「沈黙の魔女」 サイレント・ウィッチ OSTより

今年最も印象に残った作品の一つが、「サイレント・ウィッチ」です。第一話のギャグを織り交ぜた軽妙なタッチに始まり、学園ものかと思いきや、謎解きサスペンス劇を経ての、まさかのシンデレラストーリー。終始楽しく観ることができました。

サウンドトラックは弦楽器を中心に構成され、本作の舞台となるセレンディア学園の雰囲気を作り出しています。試聴曲の「沈黙の魔女」は本作のメインテーマでもあり、美しくどこか悲しげなコーラス（多重録音？）から始まり、壮大でダイナミックなオーケストラに移っていきます。厚い低音楽器に支えられ、オーディオ的な魅力も十分。低域下限は45Hzと控えめですが、試聴の始まりにピッタリだと思い選曲しました。



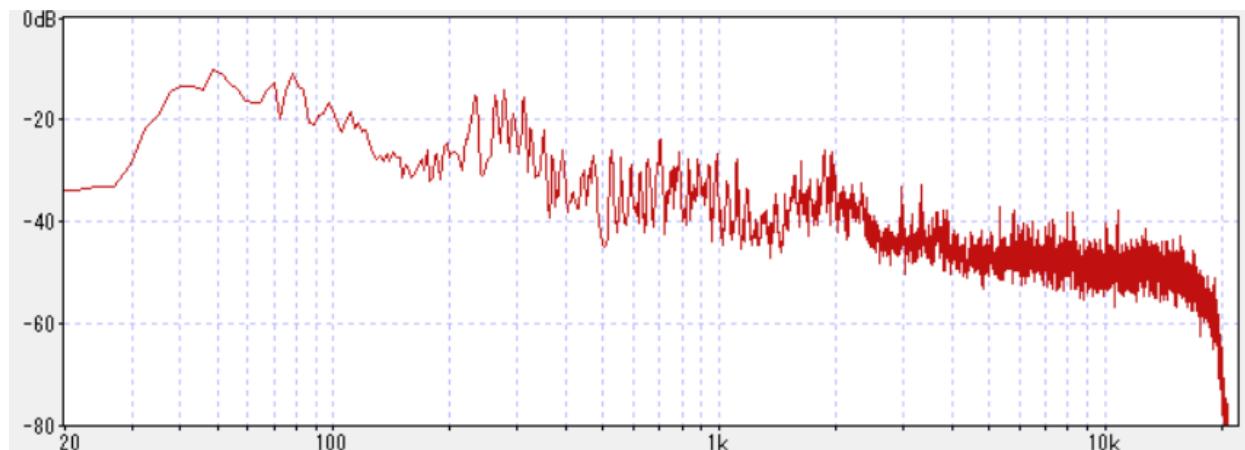
楽曲の聴きどころの周波数特性。 AppleMusic再生より。

## 楽曲紹介 2曲目

### 「夢屑ケーキ」 AZKi

毎年夏に開催されるオーディオショウ「OTOTEN」が快進撃を遂げています。2024年から2年連続で前年比140%の入場者数で、今年は8650名が来場したこと。特に、40歳未満の世代の伸びが顕著で、今年の来場者の43%が40歳未満。レコードブームだけでは説明できないこの潮流の中核にいるのが、ホロライブ所属VtuberのAZKiさんです。AZKiさんブースには、1400人が訪れたとのことで、その影響力の大きさを伺い知ることができます。

「夢屑ケーキ」は、2024年の12月25日に公開されたクリスマスソング...なのですが、作ったケーキ、来なかつた彼、何度も一人で吹き消すローソク、シンクに投げ捨てられたケーキ、という壮絶な歌詞。35Hzからの低音がただならぬ雰囲気を作り出し、圧迫感を感じる20Hz付近にも明確に音が入っており、サブウーハーの能力が存分に発揮される楽曲です。



楽曲の聴きどころの周波数特性。 AppleMusic再生より。

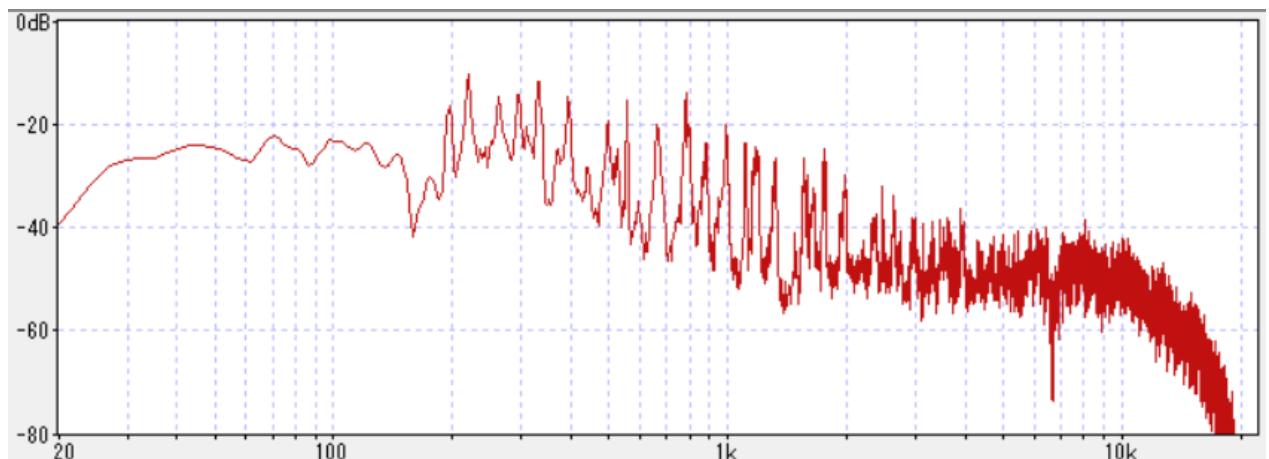
## 楽曲紹介 3曲目

### 「STARLIGHT」 うたごえはミルフィーユ

音楽アニメが熱い！ 年始の「Ave Mujica」は訴求力のあるストーリーに感動し、春アニメの「ロックは淑女の嗜みでして」は痛快な熱量が心地よい作品でした。

夏に始まったのが「うたごえはミルフィーユ」。音楽活動の開始時点からストリーミング再生で聴いていたこともあり、待望のアニメ放送でした。「どう音楽と向き合うか？」というテーマ性は、オーディオ趣味にも通じる部分を感じた良作でした。

スピーカーの間の音像は、メインボーカル・ベース・ボイスパークッションの3人。コーラスは、リスナーの左右に並び立つような感じに聴こえます。アニメ本編の「手と手をつないで歌ってみよう」に、自分も参加したような気分になり、ちょっと恥ずかしくなる素晴らしい録音です。ボイスパークッションの低音は30Hzまで伸長し、サブウーハーのさり気ない超低音がリアリティを強化します。



楽曲の聴きどころの周波数特性。 AppleMusic再生より。

## 楽曲紹介 4曲目

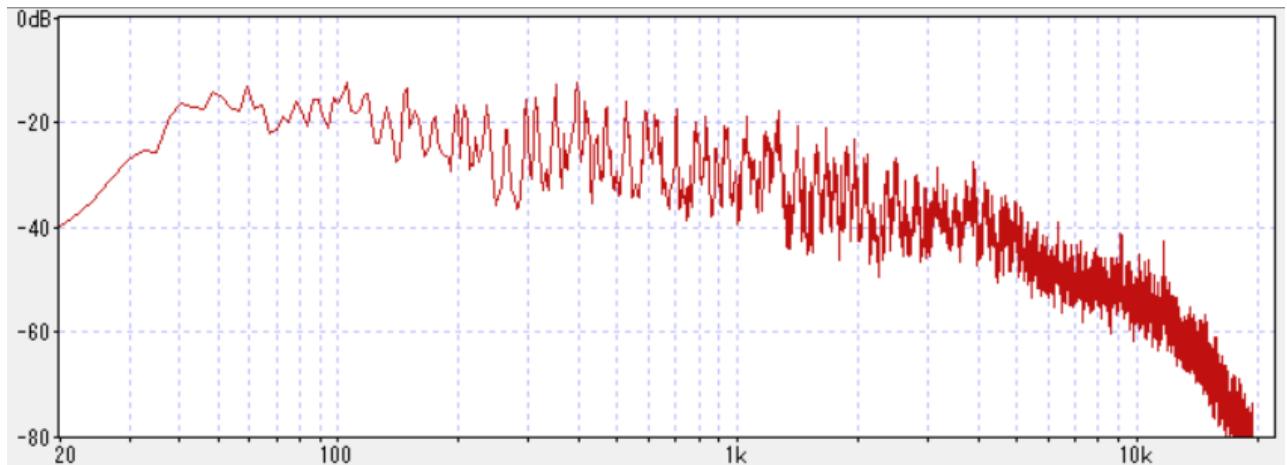
### 「空と約束」倉本千奈・EvanCall、学園アイドルマスター

百花繚乱のスマホゲームの中でも、いま最も人気のある作品の一つが「学園アイドルマスター」です。最新のグラフィックでキャラクターを親密に感じられるだけでなく、「ぬい活」を楽しむプロデューサーも多く見かけます。

倉本千奈は、その中の一人のキャラクターですが、作曲にEvanCallさんが加わったことで、公開前から話題になりました。公開されたPVは、涙なしには見られない感動的なものでした。

名家の生まれで不自由なく育った彼女が憧れたのが、アイドルの世界。強い想いを胸に自分の殻を破り、何度も挫けそうになりながらも前に進んでいく。そんなダイナミックな様子がEvanCallさんのオーケストラで描かれます。

静かな前半から、後半にかけて盛り上がっていく楽曲で、再生装置には高い分解能が求められます。低音は40Hz止まりですが、発表の最後を飾る曲に相応しいと思い、選曲しました。



楽曲の聴きどころの周波数特性。 AppleMusic再生より。